

Title	地域資源を対象とするツーリズムの地域振興効果の研究 : ワインと清酒の特性比較の検証
Author(s)	八反田, 元子; 敷田, 麻実; 木野, 聡子
Citation	日本観光研究学会全国大会学術論文集, 26: 453-454
Issue Date	2011-12
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16790
Rights	本著作物は日本観光研究学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Institute of Tourism Research. Copyright (C) 2011 日本観光研究学会. 八反田元子, 敷田麻実, 木野聡子, 第26回日本観光研究学会全国大会学術論文集, 2011, pp.453-454.
Description	

地域資源を対象とするツーリズムの地域振興効果の研究

～ワインと清酒の特性比較の検証～

A Comparative Study of Wine and Sake Tourism: Impact on Community Development

八反田元子* 敷田麻実** 木野聡子***

HATTANDA Motoko* SHIKIDA Asami** KINO Akiko***

キーワード：地域資源、ワイン、特性比較、地域振興

1. はじめに

近年、地域資源を活用した、観光による地域振興の取り組みが各地で進められている。その中でも農産物の潜在力に着目し、自然や伝統技術との融合によって、付加価値を高めて潜在需要を掘り起こし、地域の魅力とすることが多い。その際に地域資源を観光対象としたツーリズムが実施されることも多い。しかし、個々のツアーの取り組みの地域振興の効果には、利用する資源によって差があると思われる。ところが、この点にかんする具体的な研究や分析は日本では少ない。

そのため本研究では、地域資源の中でも農産物を原料とするワインと清酒にかんするツーリズムを取り上げ、その特性を比較し、共通点と相違点、固有性について検証する。ワインと清酒をテーマとするツアーの形態や内容には、資源特性を反映した差があると考えられる。そこで、ワインと清酒をテーマとするツーリズムの地域振興の効果について、製造工程の分析と関係者への聞き取りをもとに考察する。

ここでワインと清酒に注目するのは、いずれも嗜好品かつ醸造品という共通点を持ち、各地でそれらをテーマとするツーリズムの例があり、比較対照に適しているからである。もちろん、ワインと清酒には委託栽培・醸造による全国ブランドの製品もあるが、ここでは山梨県内での「ワインツーリズム」や長野県内での清酒ツーリズムなど、地域で製造販売している醸造所を訪問するツアーのケースを取り上げた。

2. ワインと清酒の特性比較

まず、原料特性・製造工程・消費流通について、ワインと清酒の特性を比較した結果を、表1に示す。

表-1 ワインと清酒の特性比較

		ワイン	清酒
立地	醸造所	畑に隣接	水田と分離
	田畑の形状	多くは傾斜地	平地
	土壌の質	ミネラル分の多いやせ地	肥沃
	水はけ	良好	水耕
製造	原料農産物	ブドウ(果樹)、経年栽培	米(穀類)、単年作物
	前処理	压榨	脱穀、精米
	醸造変化	糖→アルコール	澱粉→糖→アルコール
製品	水分	原料ブドウの水分	醸造段階で加水
	品質要素	原料、気象、土質	醸造技術
	技術の関与	栽培・醸造技術者	杜氏と醸造技術集団
流通・消費	流通期間	熟成で価値変化	多くは単年
	選定基準	品種、産地、製造年、価格	銘柄、種別、価格
	市場	世界的拡がり	地域中心の国内
地域関係性	景観	畑と醸造所の一体性	町並みの要素
	雇用	常雇用+季節雇用(収穫)	常雇用
	住民との接点	地域向け企画、フットパス	地域向け企画

(1) 原料と醸造所の立地

ワインの原料であるブドウの水分は約90%、清酒原料の酒米は約25%が水分である。製品としてのワインの水分は果実に由来するが、清酒の水分は製造工程で加えられたものである。

酒米は脱穀・乾燥して、収穫地から離れた醸造所に品質を低下させずに移動させることができる。そのため清酒の醸造は、酒米を集荷し易く、良質な水がある消費地に近い所が適地とされている。

一方、麻井(2003)が述べているように、ブドウは振動によって品質が低下し易いので、原料を遠方に搬送せず、収穫地で醸造することになる¹⁾。

(2) 製造工程と人の関与

ワインの品質は、原料ブドウによって決まると言われ、ブドウに含まれる糖を酵母でアルコールに変えるというシンプルな工程で、「技術」が関与できる余地は少ない。麻井(2003)は、「固有の風土と固有の伝統が固有のワインを生み、仕事の所作はそれを結ぶ糸に過ぎなかった。」と表現している²⁾。そのため、ワインの醸造は、醸造者が自らブドウ栽培にかかわり、良質の原料ブドウで醸造することが理想とされている。

*北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修士課程**北海道大学観光学高等研究センター***きたかん

一方、清酒づくりは一般に「一麹・二酒母・三造り」と言われ、「杜氏」を頂点とする複数の「蔵人」によって醸造される。所有者が経営し杜氏や蔵人は醸造を担当するが、清酒の醸造工程はワインに比べて複雑であり、経験にもとづく工程管理を要する。

(3) 消費・流通

ワインは醸造後の熟成で評価が変わるが、清酒は醸造直後から、時間経過とともに劣化が進む。そのため、ワインのなかには長期間にわたり流通するものもあるが、清酒は単年で消費される。また、ワインは製造年のブドウの品質で評価が異なり、国際市場での取引価格が変わるのに対し、清酒は製品完成時の評価で決定し、多くは生産地を中心に国内で取り引きされている。

なお、消費者の商品選択基準は、ワインでは、品種・産地・製造年・価格などを総合したものである。しかし、清酒では銘柄・種別・価格などが基準となる。

3. ワインと清酒の特性とツアーの地域振興効果

以上のワインと清酒の特性比較をもとに、これらをテーマとするツアーの地域振興効果について、以下の視点から考察する。

(1) 利用資源と地域との一体化

ワインの原料であるブドウは輸送に適さないため、醸造所周辺で生産されることが多い。また原料であるブドウで製品の品質が決定されるので、醸造所と原料ブドウの生産場所は同じ地域である。また、ワイン生産に必要な原料ブドウは、その地域の気候や土質・地形など、地域の環境に依存している。ツアーでは、ワインという製品を対象とするが、利用する原料ブドウという資源は、地域環境と「一体化」している。

一方、清酒の場合には、原料である酒米は全国から調達できるので、利用する地域資源は製造に使用する「水」だけとなり、資源と地域の一体度は低い。

(2) 資源への「はたらきかけ」の可能性

ワインの生産では、醸造者自らが原料ブドウを生産することが基本である。ブドウは、耕作地を含む周辺環境と一体化した「地域資源」だと考えられる。さらに、醸造者はブドウ畑の環境も含め、地域資源にははたらきかけて、原料ブドウの品質を向上させることができる。つまり、地域と一体化した資源であるブドウ畑は、はたらきかけの対象となっている。

しかし清酒の場合には、原料である酒米を製品の品質向上のために地域外から移入することが基本である。

また、酒米生産と醸造は完全に分業であり、醸造者が生産に参加することはない。さらに、清酒の製造工程で使う水は、地下から汲み上げるだけであり、はたらきかけの対象とはなりにくい。そのため、清酒製造において地域資源にははたらきかける機会はほとんどない。

(3) ツアーの観光対象

ワイナリーツアーでは、観光対象となる地域資源としての製品ワインと地域環境が一体化しているので、醸造所だけでなく、その周辺のブドウ畑もツアーの観光対象となる。また、醸造所を訪問する観光客は、ワインの品質を決める原料ブドウの生育環境を知り、その場所に住む醸造者とのコミュニケーションで、地域という原料生産環境と製品の両方について理解を深めることができる。つまり醸造者も、地域資源と一体化したツアーの構成要素となる。

一方、清酒を対象とするツアーでは、製品を製造する醸造所だけが観光対象となる。その理由は、品質のよい清酒を醸造しようと、原料を各地から調達するからである。酒米の水田は醸造所と離れており、醸造技術者である蔵人たちは、全国から雇用され通年そこに居住しないことも多い。そのためツアーで観光対象となるのは、地域と一体度が低い、醸造所の施設・設備と関係者である。

4. まとめ

本研究では以上のように、ツアーの対象となる地域資源であるワインと清酒の特性を比較した。その結果、ワインが地域と一体化して、地域環境を含めて観光対象となるのに対して、清酒は地域の環境や地域関係者と分離した資源が観光対象であることが導かれた。清酒のように地域と分離した資源が観光対象となるツアーでは、地域への波及効果は、経済的効果に限定されがちで、地域環境や社会との接点は少ないので、広義の地域振興にとっての効果は充分ではないと考えられる。今後、地域資源を観光対象とするツアーを企画する際には、このような地域資源の特性に着目して推進することが重要である。

【参考文献】

- 1) 麻井宇介 (2003) : 日本のワイン・誕生と揺籃時代 本邦葡萄酒産業史論攷、日本経済評論社 : p129
- 2) 同上 : p138